

令和7年度 第1回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和7年5月22日（木） 午後2時～午後4時

2 開催場所 相良庁舎4階 大会議室

3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】

岩崎	陽子
大石	武晴
宮崎	純
武田	てるみ
岡田	克彦
増田	曜子
佐藤	寛
村松	利奈

【事務局】

教育長	橋本	勝
教育文化部長	竹内	英人
社会教育課長	本杉	裕之
図書館長	内山	卓也
図書係長	西川	いく美
主任	水野	秀信
会計年度任用職員	芹澤	芳里

4 傍聴者 2名

5 議題

【議題】

- (1) 令和6年度図書館事業実績について
- (2) 令和7年度図書館事業について

6 内 容（要点記録）

【教育長挨拶】

【牧之原市図書館協議会委員 自己紹介】

【委嘱状交付】

【会長・副会長選出】

（事務局）委員の中から会長・副会長を選出したい。意見はあるか。

（意見）岡田氏を会長に推薦したい。

採決

（事務局）全員賛成なので会長は岡田委員にお願いする。岡田会長、副会長の推薦はあるか。

（会長）増田氏を推薦したい。

採決

（事務局）全員賛成のため副会長は増田委員にお願いする。会長・副会長より一言お願いしたい。

（会長）委員の意見を大切にして図書館政策に活かす協議をしていきたい。

小学校の教員を経験した後、静岡県立中央図書館に異動になり巡回訪問で旧相良町時代の図書館にも来ていた。庁舎内にあった相良図書館は狭く、サービスも発展途上であった。現在は図書館がリニューアルし、利用者も増加していると聞き良かったと思う。皆の熱い思いが行政を動かしたと思う。委員の意見を大切にしてよりよい図書館にしていきたい。

（副会長）今回会長となった岡田委員には県立中央図書館でお世話になっていた。いま県では新館の準備に苦慮している中、牧之原市立図書館は市民と共に良い図書館ができたと思う。今年度は専任館長がついたことも心強く思う。

【議題】

（１）令和６年度図書館事業実績について

◎事務局説明要旨

令和６年度実績について資料の説明。運営の自己評価として、図書交流館の来館者数・貸出冊数は横ばい、文化の森図書館は大幅な増加を示した。市立図書館全体で見ると前年度と比べて新規利用者の来館が増加している。市民周知としては広報まきのはら、市公式ライン、図書館ウェブサイト、図書館インスタグラムなど、広く情報を届けるために複数の媒体を活用している。

図書交流館は官民連携やリノベーション工事関連で多くの取材を受けた。全国的にも

先進事例として評価を受けたと認識している。文化の森図書館はオープニングイベントに関わった榛原高校生を中心に学生の利用が増えた。文化センター花壇の手入れから市民協働の図書館づくりとして相乗効果が見られる。郷土資料や福祉関連資料の棚を設置するなど図書交流館とは違った特色を出している。

開館時間の延長から社会人の利用も増加した。移動図書館もバスが出向いていく出張形イベントが好評であった。アウトリーチサービスは今後も検討したい。

◎委員からの主な意見

（会長）事務局の説明に対し、委員から意見を伺いたい。

（意見）文化の森図書館開館が去年の4月であるが、とても馴染んでいて昔からあるように感じた。人の出入りも多く、できてよかったという思いで利用されていると感じる。花の会で花壇づくりに関わっているが、素敵だという声をいただく。市民と図書館とともに作っている図書館だと感じる。移動図書館は勝間田ゆうゆうランドのイベントに出張してもらって3回目であるが、とても楽しみにしてくれている。図書館に行く・利用しようと思うきっかけにできる。図書館に行かない人からすると本を借りるのはハードルが高い。移動図書館の施設出張が好評との説明だったが、一度借りるという経験を広める意味でもよい。今年度の事業も期待している。

（会長）図書館単独ではない。地域と連携しイベントを行いながら広げていけば利用者増加につながる。子どもにとって図書館活動は得をし、読みたい本を自分で探せることは将来の職業選択などでも役に立つ。

（意見）説明ではイベントが大人と子どもの2つで区分されていたが、中高生がどれほど関わっていたか考えながら聞いていた。本に触れる機会も図書館を利用する生徒も減っている。また、読んでいてもライトノベルが多い。もっと本に触れてほしいと思う。何か地域の図書館と学校教育の足並みをそろえて行えないか。より連携ができれば本を読んでもらえるのではないか。

（会長）中学生以上の読書活動は難しいと感じるという意見。小学校ではどうか、

（意見）牧之原中学校の事例として、ウーバーイーツのように学校にない本を図書館で借りて届けるなど連携している。貸出時の課題も聞いているが普段触れられない本に触れてもらえる。学校教育の関わりを学校からも働きかけることで盛り上げていきたい。広報紙に比べインスタグラムでは楽しそうな雰囲気が伝わり、子ども・母親目線で見ても楽しそうで効果的だと思う。今後お願いしたい。

（会長）読書離れについて、小学生や中学生の利用数はわかるか。

（事務局）数字は持っていないが、来館者の動向では小学生は本を借りている印象を受ける。中高生は来館しても館内で勉強するなど滞在目的が多く、貸出は少ない。

（意見）探求の授業では調べものに対してインターネットやホームページの抜粋が目立ち本を調べるまで結びつかない。本を使えば広がるように思う。今年度は図書館利用の件で鈴木前会長にも声をかけて榛原高校で講演会を予定している。探求の授業は図書館

とつなげる近道ではないか。

（事務局）探求の授業の件で、提案を頂き講演会と図書館見学を予定している。意見の中に出たライトノベルも本に入るきっかけの一つでもあると思う。しかし継続して本を利用するためには子どもたちが本には面白い発見があるという納得・気づきがなければならないと感じる。今年度子ども読書活動推進計画を策定するが、子どもたちに本は面白い、きっかけがある、夢がある、課題解決になる、そのような気づきになる計画にしたいと思う。機会をもらえれば講演会など連携して協力していきたい。

（意見）学校からの要望は図書館側も積極的に関わり互いに利用してもらいたい。移動図書館が福祉施設訪問など高齢者世代に提供していたのが良い。子どもたち同様に、高齢化社会に対応する形で様々な世代にも対応していただきたい。

大人の学び講座に関して参加された年齢層をうかがいたい。各年齢に応じた細やかな対応も必要になってくるのではないか。大人向けにも良い展示を行っていると思うので、今後も各年齢層に利活用してもらいたい。一方でリクエスト件数が少なくなったのはなぜか。また、0歳から3歳児の子どもを持つ親や乳児対象のイベントは行ったのか伺いたい。

（事務局）リクエストについて、今回配布した資料では予約とリクエストの件数を分けた数値を提示しているが、図書館基本計画上では両方を合算の数値を示している。

講座の参加者について、大人の学び講座の年齢層は様々で40代から70代までの参加者の幅は広いが、特に60代の方が多いように思う。講座ではアンケートをとっているため参加された年齢層は確認できる。子ども向けイベントにおいては、未就学児から小学生の参加が中心となっている。令和6年度は中高生向けとして進路支援の骨格診断講座を実施した。他市町でも中高生向けのイベントの事例があり、検討していきたい。

0歳から3歳の対象では子育て支援課と協力してブックスタート事業に関わっている。

（意見）館内で0歳から3歳向けに絵本の読み聞かせなどは行なっているのか。

（事務局）館内では定例おはなし会を実施している。年齢を区切っていないが未就学児の参加が多い。文化の森図書館でもボランティアと連携しておはなし会の準備を進めており、6月に予定している。

（意見）文化の森図書館も利用者が来ている印象を受ける。イベントや人を引き付けるものを今後も考えてもらいたい。

（意見）習い事の待ち時間に図書館を利用している。開館時間が以前よりも延びているのでありがたいと思う。学生の利用も多い。特に受験シーズンは勉強目的での来館が多いと感じる。学生は自分の借りたい本があれば借りるのではないか。リクエストをしやすいよう、読みたい本を書いて意見箱にいれてもらい、Instagramや掲示板で周知するシステムはどうか。

図書交流館よりも文化の森図書館ではイベントが少ない印象を受ける。外の芝生エリアやパーゴラを利用したイベントを考えてほしい。

（意見）図書交流館の設計当初は落ちついて本を読めないのではないかと危惧していた

が、上手く運営できていると感じる。放課後児童クラブ内で大型本の評価が良いと聞く。今後とも利活用を進めてほしい。図書館の本が少ないと思われないために、リクエストやレファレンスで他市町からも資料を借りられることを周知してもらいたい。

コピーサービスについて、費用等聞きたい。

（事務局）図書館の資料のみ複写が可能で、1枚あたり10円かかる。

（２）令和７年度図書館事業について

◎事務局説明要旨

図書館の人員体制で専任館長と新係長が入った。会計年度任用職員の人数は変わらない。今年度は子ども読書活動推進計画の策定や図書館オンラインシステムの更新を予定しており、そのための予算等もとっている。

現行の図書館オンラインシステムは令和３年１月に初導入し、令和７年１２月までの契約である。それまでに契約事務やシステム構築を行い、１２月中下旬に臨時休館して機器の入れ替えや蔵書点検を行う予定である。

講座・イベントに関しては両館とも季節のイベントや大人の学び講座等を検討している。７月２２日には、鈴木前会長が榛原高校２年対象に講演会と図書館利用案内・見学会を予定している。文化の森図書館は今年度中に来館者１０万人を超える見込みであり、達成した際にはイベントを計画したい。移動図書館でも今まで利用していなかった方に図書館利用を促すサービスを検討している。

連携事業としては学校司書連絡会、図書館見学・職場体験の受け入れ、ブックスタート、大河ドラマ関連展示など、各部署と連携しながら情報交換や相互支援を行っている。

◎委員からの主な意見

（意見）イベント企画が多くあり楽しみに感じる。イベントと展示のリンクはあるのか。イベントに参加して本を借りてもらう流れはできているのか。

（事務局）イベントの際には毎回関連資料の紹介を行っている。分類を絞らず広く関連図書を紹介し、貸出につなげられるよう工夫している。

（意見）子どもたちはライトノベルをよく読んでいる。楽しむ所から本に親しんでもらえるよう、本そのものを紹介するようなイベントも有れば良いと思う。

（事務局）本を紹介するイベントということであるが、６月に開催する学校司書連絡会の中で、ブックトークの研修を行う予定である。図書館職員も本の紹介の仕方・ブックトークの技術を学ぶことで紹介できるイベントもできると考えている。検討していきたい。

（意見）楽しみにしている。

（意見）総合的学習の時間で市と共同で牧之原市の活性化プロジェクトを行っている。以前にカタショーを使ってお化け屋敷を実施した。生徒発案で図書館利用、本に触れる活動が出来たら良いと思う。

（会長）図書館運営に協力する方が多く良い市だと思う。

（意見）昨年度レファレンス利用が少ないという意見が出た。本を借りる際にどのような本を借りればよいか、どこにあるか分からない生徒が担任教員に聞いていた。教員は図書館職員にレファレンスできると伝えていたが、夏休みの際自由研究や感想文などインスタグラムでも子供・保護者向けにアナウンスして欲しい。

（意見）榛原高校の講演会があるということだが、参加人数はわかるか。反応などはあるのか。

（事務局）2年生対象で120名程度の参加を予定している。

（会長）図書館の機能の中で一番大切なことはレファレンスではないか。貸出冊数などに目が行きがちであるが、図書館の使命はレファレンスである。レファレンスが気軽にできる図書館は市民との連携も円滑であり、結果レファレンス件数の増加につながっている。予算が無くてもレファレンスは最後まで残り続けるものであり、利用者を図書館につなげるものである。レファレンスを中心に指標や評価ができるようにしていければ良い。

（意見）昨年度からの改善点として専任館長がついたことが良かった。両館の周知と発展、図書館政策を考えると館長職は必要である。教育長も発言されていたがこれからはソフト面の充実が求められる。そのためには統計からみても職員の不足が課題と言える。レファレンスを充実するためにも職員の充実が必要である。レファレンスを通じて図書館は本を借りるだけではないと感じてもらい、各世代に応じた生活の豊かさを提供してほしい。

利用者カード登録者数で文化の森図書館の箇所が空白であるがなぜか。

（事務局）市立図書館全体の登録者数となっているためである。

（意見）来館者数は推移しているが、計画より伸びていないと感じる。より増えるようにお願いしたい。登録者数の値も来館者数と比例して伸びているか。

（事務局）令和5年度と比較して1,200名程度増加した。今年度も新規利用登録を受けている。榛原高校で講演会を実施する説明をしたが、学校で生徒の利用登録のお願いをしたところ早速作成に来ている学生がいる。

（意見）利用登録後、利用者が引き続き図書館を利用してもらえるようフォローをお願いする。イベントや行事が多く職員の負担も大きい。職員数の配慮をしてもらいたい。

（事務局）ハード面の整備が整い、今後はソフト面の充実が求められている。レファレンスの機能がある、他館から取り寄せられることの周知など利用者教育も大切だと思う。図書館法でも課題解決の手助けは重要な機能の一つであるとうたっている。ソフト面の充実から本来の図書館としての機能が発揮できるように努めていきたい。

（意見）そもそもレファレンスの充実とは、具体的に説明して欲しい。

（事務局）図書館に来館し、その人が抱えている課題やニーズ、実生活の困りごとに対して解決の手伝いを行うことがレファレンスである。単純に図書館司書お勧めの本を聞いてもらっても問題ない。多岐に渡る質問をいただく。

（意見）主に図書館司書がアドバイスするのか。

（事務局）図書館司書であれば技術を学んでいるので資料を提供しつつ解決の手伝いを行なえる。司書が中心となって対応するが、解決するためのインタビューなど糸口を知るきっかけは図書館職員全員が行っている。貴重書等を当たる場合は県立中央図書館等に相談したり、複数名で対応するなど様々な方法を使って回答している。

（意見）レファレンスの問い合わせについて、インスタグラムでレファレンス紹介はできないか

（事務局）可能だと思う。検討したい。

（意見）「レファレンス」というと堅く感じる。例えば「図書館博士」など親しみやすい呼び名だと声をかけやすいのではないか。さらにPOPなどで紹介すれば聞きやすくなる。

（意見）インフォメーションマークを使用して周知している図書館もある。県立では過去のレファレンスをインターネットで公開している。レファレンス協同データベースという全国のレファレンスをまとめているサイトもあり、インターネットで見ることができる。

（会長）困りごとを図書館で解決してみませんか、など図書館が身近な場所に対応することが大切だと思う。金谷図書館の館長になってカウンターで働いていると「館長に会いに来た」と言ってくれる利用者や、図書館主催で館長の講演会を実施してほしいという声を頂いた。専任館長は利用者にとって重要な意味を持つ。館長自らが外にPRすることが図書館利用にもつながる。レファレンスとセットで職員に紹介するなど館長レファレンスなどにもつなげられたら良いと思う。

以上